

はちのへ「朝めし」「朝ぶろ」乗合タクシー「八戸あさぐる」

社団法人 八戸観光コンベンション協会
(事務局次長 安原 清友)

八戸市は、太平洋を臨む青森県の南東部に位置し、北はおいらせ町、西は五戸町及び南部町、南は階上町及び岩手県軽米町に接しています。

地形は、なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分する形で馬淵川、新井田川の2本の川が流れています。

臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備されており、背後に工業地帯が形成され、優れた漁港施設や背後施設を有する全国屈指の水産都市、北東北随一の工業都市として、地域の拠点となっています。



八戸市の位置

八戸市でこの11月から運行を開始した、はちのへ朝市朝ぶろ乗合タクシー「八戸あさぐる」は、東北新幹線全線開業を2年後に控え、八戸の新たな魅力アップを目的として、八戸観光コンベンション協会と八戸広域観光推進協議会が共同で実施しているものです。

八戸市の特性でもある、①ビジネスの宿泊客が8割、②八戸は朝が早く朝市が盛ん、③温泉旅館は無いが「銭湯」が多い、と言った八戸の“強み”を生かし、近年観光客にも認知され始めた「朝市」という既存の観光資源と新たな観光資源である「早朝銭湯」を連携させることで、他の地域には無い八戸オリジナルの観光資源を創り出すことを目指したものです。

八戸市がある青森県の日本一としてすぐに浮かぶのは「りんご」や「にんにく」「イカ」といった農林水産物が中心でしょうが、これらの他にも「早寝早起き」と「公衆浴場数(人口当たり)」が日本一というのが意外なものとして挙げられます。これは総務省のデータによるものですので信用できるデータです。(「2006年社会生活基本調査」)

そんなデータを裏付けるように、八戸では昔から朝市が盛んで、現在でも市内9ヶ所で毎日のように朝市が開催され、どの朝市も多くの人々で賑わっています。

中にはほぼ毎日、午前3時から開く市場もあるなど、異常とも言えるくらいの早起きの習慣が根付いております。

かつては市民を中心に親しまれていた朝市ですが、陸奥湊駅前朝市というところで数年前から始めた「朝市」で食べる朝御飯や、漁港の岸壁に400軒もの市が軒を連ねる名物朝市などが人気を集め出し、2002年の東北新幹線八戸開業を契機に、観光客も数多く訪れるようになりました。

最近では、観光客が「朝市」で朝御飯を楽しむ光景を目にする機会も増え、今や八戸を代表する観光資源の一つとなった「朝市」に並び、八戸の「朝」を象徴する存在として、今回着目したのが朝5時頃から営業している「早朝銭湯」です。

人口当たりの公衆浴場数日本一の青森県では、県民の多くが車のトランクにシャンプーや石鹸などの「お風呂グッズ」を常備しているというお風呂大好き県です。

その青森県の中でも八戸市は銭湯が数多く存在する言わば“銭湯王国”。

近年減少傾向にあるものの、現在でも40軒ほどが残っており、半数の約20軒が早朝5～6時頃から営業し、毎朝銭湯で常連客がコミュニケーションを楽しむほど、八戸には朝から銭湯を利用する習慣も根付いている街でもあります。

八戸に古くから根付く「朝市」と「朝ぶろ」という早朝文化を観光客の方々にも気軽に満喫していただくため、この「八戸あさぐる」では、八戸市内の指定ホテルに宿泊した観光客が、前日の午後10時までにホテルのフロントに申込み、翌朝6時にホテルに出迎え、朝市と銭湯（一部温泉）を満喫した後、再びホテルに戻る「乗合タクシー」が利用できます。

お土産（オリジナルエコバッグ、フェイスタオル、地元産の「ふのり石鹸」、「ふのりシャンプー」）まで付いて、基本コースがたったの1,000円という格安の料金で利用できるのは、観光客の早朝の新規需要創出に係る実証実験として、観光庁の「観光産業のイノベーション促進事業」に係る実証事業の採択を受けたため、「ソトアサ族」という言葉も生まれるように、最近のトレンドとして、朝の時間を有効に使おうという風潮にマッチした点が評価されたようです。



乗合タクシー



お土産

<ご利用の手順>



この「八戸あさぐる」の計画段階では、運賃を低く抑えるためバスによる運行を想定しておりましたが、①利用客の有無に関わらず運行しなければならないこと、②中心街のホテルや朝市の設置場所が狭い、といった事情からバス運行による事業実施を断念し、乗合タクシーでの運行に変更いたしました。

しかしながら、私自身が運輸行政の経験が無いため、道路運送法により乗合タクシーに許可が必要なことや、その許可に数ヶ月を要することも全く分からないまま観光庁へ事業申請してしまいました。

その後、事業採択の決定時期に乗合タクシーが許可されるのかどうか、不安になりましたが、幸い東北地方運輸局や青森陸運支局の担当者の方々から、申請に関して懇切丁寧に指導していただきタクシー会社の協力もあり、道路運送法21条による実証実験として許可を得ることができ、11月から事業実施に目途が付いた時には、本当に安堵いたしました。

また、これまで当協会として、ホテル協議会を中心とした市内のホテルと連携して一つの事業を実施するという実績も無かったところから、この「八戸あさぐる」に対し、多くの宿泊施設が賛同していただき、さらには宿泊客へのPRを積極的にしていただき、単なる観光客向けの早朝のサービスを実施したということ以上に、今後当協会が八戸の観光振興を図るうえで、新たな手法を確立できたという点でも非常に意義のあるものでした。

事業開始から1ヵ月半での利用客が約100名ということで、PR期間がほとんど無いなか、北国八戸の冬期間早朝6時からサービスとしては、好調な滑り出しではないかと思えます。

これも偏に、事業実施の機会を頂いた観光庁をはじめ、市内のタクシー会社及びホテル、銭湯の関係者の皆様のお陰だと感謝しております。

今回の実証事業のスキームは、11月中旬から2月中旬までの、当市としても来訪客が最も落ち込む時期での実施となることから、今後は、オンシーズンである春及び夏季の実態を把握することを目的として、4月以降の実施についても念頭に入れながら、市内のタクシー会社や宿泊事業者と協議を進めてまいりたいと考えております。

どうか読者の皆様も、青森県へお越しの際は、八戸にご宿泊いただき、この「八戸あさぐる」をご利用いただきますようお願い申し上げます。

◇「八戸あさぐる」ホームページ

URL：<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko/asaguru.html>

◇朝市マップ

URL：<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko/map/map-asa2-all.pdf>

◇コース

※次のページをご覧ください。



朝市の様子

はちのへ「朝めし」「朝ぶろ」乗合タクシー八戸あさぐる



第1便(ホテル6時出発)

1 朝市三昧コース 朝市(タクシーのみ)
おとな600円(税込):こども300円(税込) **12月末日にて終了**

ホテル → 片町朝市 → 陸奥湊駅前朝市(湊日曜朝市) → ホテル

8時30分頃

※陸奥湊駅前朝市は第二土曜日は運休。また日曜日は湊日曜朝市に変更となります。

2 湊朝市&朝ぶろ満喫コース 朝市+朝風呂1カ所(タクシー&入浴券&おみやげ)
おとな1,000円(税込):こども500円(税込) **12月末日にて終了**

ホテル → 陸奥湊駅前朝市(湊日曜朝市) → 卵湯or柳湯or双葉湯 → ホテル

8時30分頃

※陸奥湊駅前朝市は第二土曜日は運休。また日曜日は湊日曜朝市に変更となります。(12月未まで)

3 街なか朝市&朝ぶろ満喫コース 朝市+朝風呂1カ所(タクシー&入浴券&おみやげ)
おとな1,000円(税込):こども500円(税込) **12月末日にて終了**

ホテル → 片町朝市 → ニュー朝日湯or卵湯orバイタル温泉柏崎 → ホテル

8時30分頃

4 朝ぶろ三昧コース 朝市+朝風呂2カ所(タクシー&入浴券&おみやげ)
おとな1,400円(税込):こども700円(税込)

ホテル → 卵湯orバイタル温泉柏崎orニュー朝日湯or柳湯or双葉湯 → ホテル

8時30分頃

第2便(ホテル7時出発)

5 湊朝市満喫コース 朝市(タクシーのみ)
おとな600円(税込):こども300円(税込)

ホテル → 陸奥湊駅前朝市(湊日曜朝市) → ホテル

8時30分頃

6 朝ぶろ満喫コース 朝市+朝風呂1カ所(タクシー&入浴券&おみやげ)
おとな1,000円(税込):こども500円(税込)

ホテル → 卵湯orバイタル温泉柏崎orニュー朝日湯or柳湯or双葉湯 → ホテル

8時30分頃

乗合タクシーで
殊先での
新しい出会いが
待っているかも!?



注意事項

※当日のキャンセルによる料金の払い戻しは出来ません。予めご了承ください。

※乗合タクシーは「あさぐる」ステッカーの貼ってあるタクシーにお乗りください。※緊急時等何かございましたら参加証記載の電話番号までご連絡ください。※朝市での飲食代金は含まれておりません。

※年末年始は運休となります。※6歳以下のお子様は無料となります。